

実数 a_1, a_2, b_1, b_2 に対して成り立つ次の不等式 (コーシー・シュワルツの不等式; Cauchy – Schwarz inequality) を, 以下の手順で示そう.

$$(a_1b_1 + a_2b_2)^2 \leq (a_1^2 + a_2^2)(b_1^2 + b_2^2) \quad (1)$$

i) n 次元数ベクトル \vec{a}, \vec{b} と任意の実数 λ に対して, \vec{c} を

$$\vec{c} := \vec{a} + \lambda\vec{b}$$

と定める. このとき

$$|\vec{c}|^2 + 2\lambda\vec{a} \cdot \vec{b} + \lambda^2|\vec{b}|^2 \geq 0 \quad (2)$$

が成り立つことを示せ (ヒント: $|\vec{c}|^2 \geq 0$ が成り立つことを用いよ).

ii) (2) 式の左辺を λ についての 2 次式だとみて $f(\lambda)$ と書くと, (2) 式は $f(\lambda) \geq 0$ と表せる. 任意の実数 λ に対して $f(\lambda) \geq 0$ が成り立つための条件を \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ.

iii) $n = 2$ とする. 実数 a_1, a_2, b_1, b_2 を用いて, ベクトル \vec{a}, \vec{b} を

$$\vec{a} = (a_1, a_2), \quad \vec{b} = (b_1, b_2)$$

と陽に表すことによって, (1) 式が成り立つことを示せ. 等号が成立するのはどのような場合か.

i) ただ計算すればよい.

$$0 \leq |\vec{c}|^2 = |\vec{a} + \lambda \vec{b}|^2 = |\vec{a}|^2 + 2\lambda \vec{a} \cdot \vec{b} + \lambda^2 |\vec{b}|^2$$

より従う.

ii) $f(\lambda) = |\vec{b}|^2 \lambda^2 + (2\vec{a} \cdot \vec{b})\lambda + |\vec{a}|^2$ であるから, $f(\lambda) \geq 0$ が常に成り立つことは, 放物線 $y = f(\lambda)$ が λ 軸と高々 1 つの共有点をもつこと, すなわち λ についての 2 次方程式 $f(\lambda) = 0$ の判別式 D に対して $D \leq 0$ が成り立つことと同値である. これを \vec{a}, \vec{b} で表して,

$$D = (2\vec{a} \cdot \vec{b})^2 - 4|\vec{b}|^2|\vec{a}|^2 = 4(\vec{a} \cdot \vec{b})^2 - 4|\vec{a}|^2|\vec{b}|^2 \leq 0$$

整理して,

$$(\vec{a} \cdot \vec{b})^2 \leq |\vec{a}|^2|\vec{b}|^2$$

を得る.

iii) 問題文に従って \vec{a}, \vec{b} を表すと,

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = a_1 b_1 + a_2 b_2, \quad |\vec{a}|^2 = a_1^2 + a_2^2, \quad |\vec{b}|^2 = b_1^2 + b_2^2$$

と書けるので, これを ii) で得た結果に代入すれば, コーシー・シュワルツの不等式を得る.

等号が成立するのは $D = 0$, すなわち $f(\lambda') = |\vec{c}|^2 = 0$ となる実数 λ' が存在するときである. これは $\vec{c} = \vec{a} + \lambda' \vec{b} = 0$, すなわち \vec{a} と \vec{b} が線形従属であることと同値なので, (1) 式の等号は 2 つのベクトル \vec{a}, \vec{b} が線形従属である場合, かつその場合に限り成立する.